

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：国道・防災課

担当課長名：深澤 淳志

事業名	東九州自動車道 佐伯～蒲江		事業区分	高速自動車国道	事業主体	国土交通省 九州地方整備局
起終点	自：大分県佐伯市大字上岡 至：大分県佐伯市蒲江町大字森崎浦				延長	20.4km
事業概要	東九州自動車道は九州縦貫道、九州横断道と一体となって高速道路ネットワークを形成し、九州地方の一体的な産業、経済、文化の交流発展に資する道路である。					
H10年度事業化	H 年度都市計画決定	H18年度用地着手	H18年度工事着手			
全体事業費	763億円	事業進捗率	11%	供用済延長	— km	
計画交通量	7,900台/日					
費用対効果分析結果	B/C	総費用	総便益	基準年		
	(事業全体)	(残事業)/(事業全体)	(残事業)/(事業全体)	平成20年		
	1.2	534 / 661億円	779 / 779億円			
	(残事業)	事業費：498/625億円	走行時間短縮便益：660 / 660億円			
	1.5	維持管理費：37 / 37億円	走行経費減少便益：58 / 58億円			
			交通事故減少便益：61 / 61億円			
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施					
	交通量変動：B/C=1.6(交通量+10%)		B/C=1.3(交通量-10%)			
	事業費変動：B/C=1.3(事業費+10%)		B/C=1.6(事業費-10%)			
	事業期間変動：B/C=1.4(事業期間+20%)		B/C=1.5(事業期間-20%)			
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> 国土・地域ネットワークの構築（日常活動圏の中心都市へのアクセス向上が見込まれる） 物流効率化の支援（農林水産品の流通の利便性が向上する） 安全で安心できるくらしの確保（三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる） 					
	他6項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見	佐伯市をはじめとする沿線の首長等で構成される複数の期成会や協議会により、早期整備の要望を受けている。また、沿線地域の道路利用者からも、早期整備に対する声が多く寄せられており、地元の期待も非常に大きい。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	<ul style="list-style-type: none"> 沿線地域の人口は減少しているものの、自動車保有台数は増加しており自動車依存が高まっている。 東九州自動車道の津久見～佐伯（平成20年6月供用）の影響により、既供用区間（臼杵～津久見等）の交通量も大幅に増加している。 					
事業の進捗状況、残事業の内容等	平成19年度末の事業進捗率は事業費ベースで約11%であり、そのうち用地進捗率は約38%に達している。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	引き続き用地買収を促進するとともに、トンネル工事等の事業進捗を図っていく。					
施設の構造や工法の変更等	事業実施にあたっては、新技術・新工法の積極的活用、建設副産物対策により着実なコスト縮減を図るとともに、早期供用による事業執行の時間的コストの低減に向け、計画的・重点的な整備により効率性の向上を図る。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勧案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図						

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。